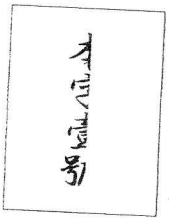
資料1



中国では14世紀中ごろ、漢民族が（明）をたてた。
足利義満はその国と右の資料1を使って貿易を行ったので、この貿易を（勘合貿易）という。

朝鮮半島では14世紀末に李成桂が（朝鮮）をたて、琉球では15世紀前半に尚巴志が琉球王国をたてた。

産業の発達と民衆　応仁の乱と戦国大名

室町時代には産業が発達し、商人や手工業者などが、同業者ごとに（座）とよばれる組合をつくった。

農村では（惣）とよばれる自治組織がつくられた。

将軍（足利義政）のあとつぎ問題に有力な（守護）大名の細川氏と山名氏の対立などがからみ、応仁の乱がおきた。

応仁の乱後、戦国時代となり、（下剋上）の風潮のなかで力をのばした（戦国）大名が、領国を支配した。

15世紀ごろ、ⓐ高利貸しを営む業者などをⓑ農民らが集団でおそい、借金の帳消しを求めるようになった。下線部ⓐにはどのような業者があるか、また下線部ⓑの行動を何というか、それぞれ書きなさい。
ⓐ（酒屋（土倉））
ⓑ（土一揆（一揆））

応仁の乱がおきた都市はどこですか。（京都）

その都市は有力な商工業者を中心に復興し、自治を行うようになった。有力な商工業者を何といいますか。（町衆）

戦国大名が定めた、右の資料1のような独自の法を何といいますか。（分国法）

当家の館以外に，国内に城を築いてはいけない。有力な者は一乗谷に引っ越し，それぞれの領地に代官だけをおくべきである。（「朝倉孝景条々」一部要約）